

農業普及だより

No. 381 令和6年1月発行
知多農林水産事務所農業改良普及課
半田市出口町1-36 (0569)21-8111

新年あけましておめでとうございます。
本年も生産者、関係者の皆様とともに知多地域の農業の発展に取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

地域農業のリーダーとなる三士が新たに認定されました

農業経営士



小島岩夫
東海市
露地野菜



石濱充統
東海市
施設野菜



荒谷芳興
東海市
果樹



丸山雄規
南知多町
露地野菜

農業経営士・農村生活アドバイザー・青年農業士の認定式が、令和5年11月22日（水）に県庁本庁舎（名古屋市）で大村知事出席のもと開催されました。

県全体で三士83名が認定され、知多地域からは、9名（農業経営士4名、農村生活アドバイザー4名、青年農業士1名）が認定されました。

地域農業のリーダーとして今後の活躍が期待されます。

農村生活アドバイザー



中野直美
常滑市
水稻、露地野菜、施設野菜



櫛直子
東海市
果樹



浅田久美子
大府市
露地野菜



大岩マサミ
南知多町
畜産（肉牛）



出口崇仁
美浜町
露地野菜

青年農業士



青年農業士が「緑の学園」で半田農業高校生へエール

地域農業への理解と就農への意欲向上を図るため、半田農業高等学校の農業科学科・施設園芸科の2年生111名へ、「緑の学園」研修を10月17日に開催しました。

知多青年農業士会の林佑亮氏（東浦町）が「将来を見据えた農業～就農10年を通して～」と題し、地域の先輩農業者として講演を行い、若い頃から目標に向けて行動することの大切さを伝えました。

また、農業大学校からは学校の案内、普及課からは地域農業の概要を説明しました。



林氏の講演を聞く高校生

新規就農者セミナーで 有機JAS取得農家から学ぶ

新規就農者セミナーをJAあいち知多青年部、(株)日本政策金融公庫との共催で、JAあいち知多総合本部ビルにて12月14日に開催し、35名が参加しました。

セミナーでは茨城県つくば市の「ふしちゃんファーム」の伏田直弘氏が「有機野菜により就農8年目で年商1億円達成。新規就農者へのアドバイス」と題して講演を行いました。儲かる農業として有機栽培を選んだ経緯やICT技術による効率化とリスク回避、商談会での販路拡大などの取り組みなどが語られ、充実した講演会となりました。



伏田直弘氏の講演

農村生活アドバイザーが 農政懇談会を開催

農村生活アドバイザー知多支部では、男女共同参画や地域活性化への取り組みの一環として、市長との農政懇談会を大府市で11月13日に、半田市で12月14日に開催しました。

懇談会では、アドバイザーが各自の農業経営や地域活動での成果を伝え、市長からは、今後も女性の能力を活かした経営発展や、農業委員などの社会参画への貢献を期待するとの激励がありました。

また、今後も農業者への支援を強化、継続していくとのお話をいただき、有意義な懇談会となりました。



半田市長との懇談会

大府市長との懇談会

ドローンを用いたカメムシ類の防除について

近年、水田ではイネカメムシを中心とした斑点米カメムシ類が多発しており、斑点米や不稔籾の増加により、収量と品質に大きな被害をもたらしています。水稻の収量品質確保には、殺虫剤の本田散布が重要ですが、効果の高い液剤を乗用管理機や鉄砲ノズルにより散布する従来手法は、水運搬や散布にかかる労力が大きな問題となっています。

そこで、より省力的なカメムシ類防除法を検討するため、近年、急速に普及拡大しつつある農業用ドローン（以下、ドローン）を用いた防除について、乗用管理機との比較を行いました。

水田10aあたりの散布液量は、乗用管理機が60～150Lであるのに対し、ドローンは0.8Lと水運搬の労力を大幅に削減できまし

た。浸透移行性を有する薬剤を使用することで、殺虫効果と残効性は乗用管理機とほぼ同等となる事が確認されました。また作業時間についても、ドローンでは乗用管理機防除に対して37%削減されました。

以上より、ドローンによるカメムシ類防除は、効果的かつ省力的な防除法であり、今後、より一層の普及が期待されます。

